

對及對ヲ決議直チニ及對斗争ヲ起セルニ因ル  
七 經過

(一) 會社側ノ態度

會社側ハ婦女ノ身ニシテ深夜他人ノ寢室ニ侵入暴行ヲ加フ  
ルカ如クハ眞ニ不都合ニシテ之レヲ不問ニ附スルニ於テハ  
將來矛盾女工ノ統制ニ至大ノ悪影響ヲ及ボスヲ以テ解雇ハ  
絶對的ナルモ只將來アル婦女ノ立場ヲ考慮シ懲戒解雇トモ  
ス任意解雇ヲ為スヘシ。郷里ノ父兄へ書面又ハ募集人ヲ通シ  
懲戒解雇ヲ為スヘシ。郷里ノ父兄へ書面又ハ募集人ヲ通シ  
身柄引取方ヲ通告スル等最後迄解雇絶對ヲ主張セリ。

(二) 勞働者側

組合側ハ何時ノ場合ニ於テモ爭議ニ附隨的ナル暴行問題ハ  
当該爭議ノ解決ト共ニ従末其ノ処分問題ハ解消シ来レルモ  
ノニシテ今回ノ問題ト雖モ調停者タル所轄署長ヨリ何等此

ノ点ニ関スル言明ヲカリシモ曩、拍トリ排斥問題ノ際亦然  
解決シ居リタルモノト謂フヘク其ノ慣例ヲ破リ更ラニ五名  
ノ解雇ヲ發表セルカ如クハ不当ナリト主張是亦強硬ナル態  
度ヲ持シ「不当首切絶對及對」等ノ宣伝印刷物ノ貼撤布本  
社陳情等ノ嫌カラセツ為セリ

八 交渉状況解決條件

發生以來屢々藤田工場長及本社第々村勞務課長等ハ會見交渉  
セルカ共ニ自説ヲ固持シテ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラヌ八月一  
日ヨリ當廳調停課ニ於テ斡旋ノ結果本月十四日別記念書ノ條  
件ニヨリ圓滿解決セリ

九 警備事故

七月二十一日午前九時三十分頃全勞日本紡織勞働組合第幾部長  
小林利以下五名ハ豊島區長崎南所一ノ一八〇九番地上場長藤田貫  
治方ニ至リ面會リ強要セルヲ以テ全員所轄目白署ニ檢束嚴論